



社会資本ストック効果

平川流路工整備による別荘地の開発

平川は姫川上流域に位置し、白馬連峰の唐松岳、五龍岳を水源とする急流河川であることから、土砂流出が激しく、何度も流路を変えながら大きな扇状地を形成しています。

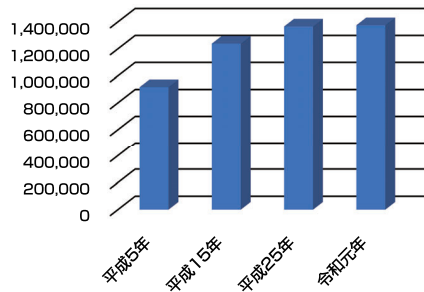
特に昭和初期や昭和30年代には大きな被害を被っており、そのことから、昭和37年より直轄砂防事業に着手し上流域の整備を、昭和47年に流路工整備に着手しました。

現在は上流域に20基の砂防堰堤、下流域には流路工が完成しています。

砂防堰堤による土砂整備、流路工による河道整備を進めた結果、氾濫被害が減少したことで、土地利用の高度化が進み、別荘地や宅地開発が増加しました。

■白馬村での観光客が増加

一般観光客数



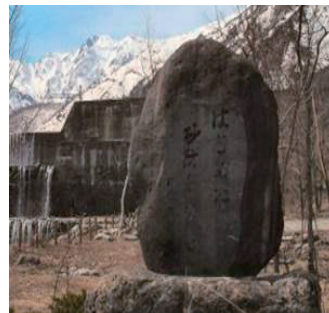
砂防施設が増えたことで流域の安全性が増し、スポーツ施設・公共施設が建設され、近年ではスキー客に加え、夏期の一般観光客や外国人観光客の宿泊者数も増加傾向にあり、毎年100万人以上の観光客が訪れています。

昭和35年
直轄作業 着手前



源太郎砂防堰堤と平川扇状地

令和2年
砂防堰堤や流路工が整備された現在



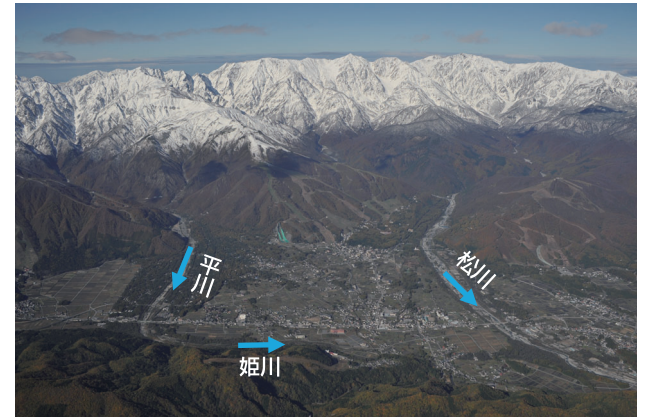
「はじめに砂防ありき」の碑



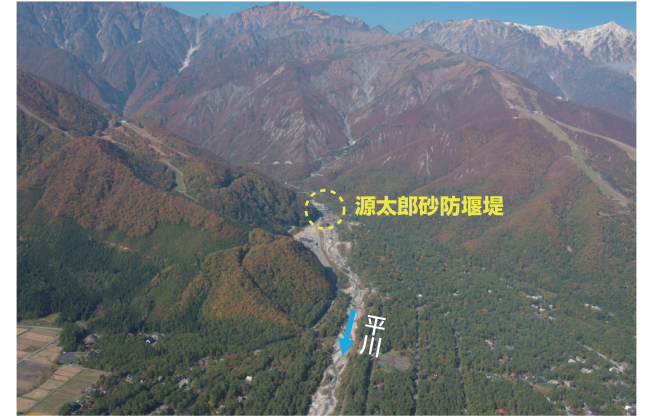
平川の河川利用

～元白馬村長の言葉「はじめに砂防ありき」～

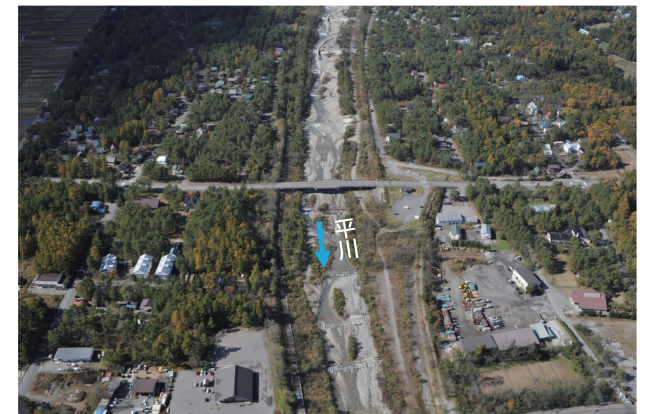
白馬村の歴史では、絶えず村の発展と共に砂防事業が行われてきたことを忘れてはいけないという意味が込められています。



平川・松川全景



源太郎砂防堰堤と上流域



白馬別荘地周辺(上流方向)